

令和 7 年度第 1 回 稲沢市地域公共交通会議 会議録

【日 時】令和 7 年 8 月 4 日（月）

午前 10 時から午前 11 時 40 分まで

【場 所】稲沢市役所 2 階 政策審議室

【出席委員数】16 名（欠席者：3 名）

【傍聴者数】7 名

【議事次第】

1 あいさつ【会長】

2 議事

報告事項（1）稲沢市地域公共交通について

（2）OD 調査（下津・大里線）結果報告について

協議事項（1）コミュニティバス運行事業に関する調査の実施（案）について

（2）大里駅の取り扱い（案）について

【議事内容】

2 議事

報告事項（1）稲沢市地域公共交通について

- 資料番号 1 に基づき、コミュニティバス、コミュニティバス接続便及び稲沢おでかけタクシーの利用状況等について説明を行った。

【主な意見】

- ・ おでかけタクシーの項目別利用割合で、年齢の項目がないが。

【委員】

→ おでかけタクシーの対象者は、75 歳以上の高齢の方、障害のある方、妊産婦の方である。利用される方の大半が高齢の方であり、年齢での集計は行っていない。

【総務課】

- ・ コミュニティバスの輸送人員はコロナ前の水準に戻っているようである。コミュニティバス追加便の祖父江・稲沢線 地泉院系統では、令和7年6月が11件と多いが。

【会長】

→ この系統では、稲沢市民病院方面の第3便で追加便を出すことが多い。概ね停留所「西島新町」当たりでバスの定員を超えることが多い。なお、追加便としてタクシー2台以上出すケースはほとんどない。

【総務課】

- ・ コミュニティバス追加便の乗り場別では「儀長」が突出していて、往路のみでの利用である。復路について把握しているか。

【会長】

→ 把握はしていない。

【総務課】

- ・ バス停留所に将来的に屋根などの設置はできないか。車内は狭いが、何か工夫はできないか。利用者が大きな声で運転手と会話していることも多く、安全面での心配がある。

【委員】

→ バス停留所に屋根やベンチを設置することは過去にも検討をしたことがある。費用面や道路上の安全面など難しい点が多い。今回は意見として承りたい。現在コミュニティバスの支線ではワゴンタイプの車両で運行しているが、車両を大きくすることは難しい。運行事業者と何ができるかを協議し、より使いやすいコミュニティバスにしていきたい。運転手と乗客との会話であるが、バスの運行は安全第一となるので、必要以上の会話をしないよう注意はしている。一方で、コミュニティバスの名称のとおり運転手との会話を含め、会話することを楽しまれる方もいる。運転手の立場も難しい時があることを我々も理解しているが、安全が第一となる点は運行事業者とも確認していきたい。

【総務課】

- ・ 運転免許証自主返納者 無料乗車券について、令和 6 年度の利用枚数は 1,312 枚であるが、発行枚数はどれくらいか。利用割合を確認したい。

【会長】

→ 令和 6 年度は 234 名、令和 5 年度は 179 名から申請があり無料乗車券を交付した。この無料乗車券は有効期限なく利用できるもので、利用割合は出すことができない。

【総務課】

- ・ 無料体験乗車券を夏休み期間、県民の日学校ホリデーで小学生に配付したが、対象者数は何人か。

【会長】

→ 約 6,800 人である。夏休み期間の利用率は、約 0.9%である。

【総務課】

- ・ コミュニティバスの利用促進として、おでかけタクシーの利用登録申請者へ啓発をしているとのことだが、併用している方はどれくらいいるか。

【会長】

→ コミュニティバスでは、日頃から乗客の情報を収集しているわけではないので、統計は取れていない。ただ、先に実施したOD調査における聞き取りでは、行きはコミュニティバスだが、帰りはおでかけタクシーを併用する利用者がいらっしゃるの把握している。

【総務課】

- ・ 高齢者は I C 決済による支払いは難しいのではないかと。回数券を販売する考えはあるか。

【委員】

→ 他の市町村では回数券を販売していることもある。支払い方法の選択肢が増えると、乗客の利便性が向上すると思う。しかし、回数券を発行するとしたら、バス車内での販売も想定され、現状、バス運転手の車内での作業が多く、安全面の観点や遅延リスクの観点から、これ以上車内での作業を増やすことは難しい。利用者アンケートでは、利用者の内 77.5%が 60 歳以上の方であるが、I C 決済の

利用割合は 18%であり、当初の想定より多くの方に I C 決済を利用
いただいていると考えている。

【総務課】

- ・ 引き続き、やれることは工夫して進めていただきたい。

【委員】

報告事項（２）O D 調査（下津・大里線）結果報告について

- 資料番号 2 に基づき、利用者アンケート調査の集計結果について説明を行
った。

【主な意見】なし

協議事項（１）コミュニティバス運行事業に関する調査の実施（案）について

- 資料番号 3 に基づき説明を行い、質疑応答の後、修正意見の反映は事務局
一任となった。

【主な意見】

- ・ 稲沢中央線を対象外としているが、コミュニティバスではないという整理か。また、「コミュニティバス運行事業に関する調査」というタイトルであるが、最初の質問が「日常の移動について、概ね当てはまるものでお答えください」とあり、回答者はコミュニティバスのことを想定して答えてしまわないか。誤解をおこしやすいように感じる。例えば、問 7 から回答者の属性の質問となるが、ここにまとめると回答しやすいと思う。

【副会長】

→ 一つ目の質問については、その通りである。令和 7 年 4 月から稲沢中央線は、名鉄バスの自主運行路線となったためである。また、質問の順序については、委員の言われた通り、問 3 から始めたほうが分かりやすいと思われるので、問 1 から問 2－3 までは問 7 から問 9 のところでまとめたい。

【総務課】

- ・ アンケートを 2, 5 0 0 人に送るが、回答率の見込みはどれくらいか。

【委員】

→ 前回、令和３年に実施した際は、回収率約４０％だった。今回も同程度の回収率を見込んでいる。

【総務課】

- ・ 回答率が４０％であれば回答数が１，０００人となる。それだけ回答がもらえれば、統計的には誤差３％未満と言われているため、アンケート調査として問題がないと考える。

【会長】

- ・ 回答者の属性を聞く項目で、運転免許証の有無を聞いてはどうか。また、職業を聞くのはどうか。スペースに余裕があるようであれば検討いただきたい。

【委員】

→ 今回は回答しやすいように質問数を絞ったところであるが、スペースを確認しながら盛り込んでいきたい。

【総務課】

- ・ ＱＲコード等を利用したＷｅｂ回答はしないのか。

【会長】

→ 先に実施した利用者アンケートでは、Ｗｅｂ回答を初めて実施した。このときは、バス車内で不特定の方にアンケート調査を配付したため、調査票の通番により重複回答が無いよう管理していた。今回は２，５００人の方を特定した上で調査票を送付するため、前回と同様の方法では対応できない。

【総務課】

協議事項（２）大里駅の取り扱い（案）について

- 資料番号４に基づき説明を行い、質疑応答の後、事務局案のとおり認められた。

【主な意見】

- ・ 大里地区は高齢化率が高く、民生委員が担当する世帯数が多い地域であり、自分で運転できない方も多くいる。そのような大里地区において、バス路線の充実につながる当提案は評価したい。

それとは別に、J R 東海道本線の東側に位置する北市場地区では、人口が増える中で若い世代が多く、現状ではコミュニティバスは広く求められていないかもしれない。一方で、バスを求める声も聞こえてくるので、この場で伝えさせていただく。

【委員】

→ 北市場地区については、コミュニティバスの要望は以前からいただいている。一般的にバス路線を設定する際にネックとなるのは踏切である。北市場地区にバス路線を通すのであれば、今回提案した下津・大里線を東進させて踏切を渡る路線が考えられる。路線の延長は便数の減少につながり、さらに、踏切を1回多く渡るとは、利便性の低下や遅延リスクを伴うため、実現は難しいと考えられる。別案としてはバスの台数を増やすということが考えられるが、こちらも昨今の運転手不足、財政的負担を考慮すると実現は難しい。

【総務課】

- ・ 地理的には清須市に隣接する地域である。清須市のコミュニティバスと連携することも一案である。参考までに、東海市、知多市、常滑市、武豊町は市町をまたぐ乗入をしている。需要を把握した上でとなるが、隣接する市町と連携するという考え方もある。

【会長】

- ・ 提案されたルートとした理由は何か。地図を見ると市域はもう少し南に広がっているが。

【委員】

→ 今回は、便数の確保を重要視している。令和5年度に下津・稲沢線、大里線を見直し、現在の下津・大里線を設定した。その際に、1日の運行便数を増やすため、路線を短くした経緯がある。旧大里線は、運行経費にかかる利用者一人当たりの市負担額が2,000円を超えていたが、下津・大里線に見直したことで、一人当たりの市負担額が1,000円前後になるまで利用者数を伸ばしており、1日の便数を増やしたことがその要因の一つだと考えている。そのため、今回の見直しについても、便数の確保を重要視して路線設定を行った。

また、大里駅にバス停を設置する場合は、西側のロータリーに設置することを想定しており、踏切を渡る回数も考慮している。さらに、

「緑町」「宮長」は人口が集積し、一定数の乗客が見込める地域であるため、今回の経路を新規路線に設定したものである。

【総務課】

- ・ 今回提案の下津・大里線からやや話がそれるが、他市のコミュニティバスの運行状況について、県は把握しているか。人口減少に伴い、民間バス会社の路線が縮小される中、市町村が走らせるコミュニティバスは増えているのか減っているのか。

【副会長】

→ コミュニティバスが増えているとは言えない。増えているのはデマンド型交通で、予約に応じた運行を選択する市町村が増えてきている。定時定路線の運行は人手不足もあり減ってきている。地域の交通手段の確保は必要であり、タクシーの確保が難しい地域は、行政がデマンド型交通を行い、地域の足を確保している。

【愛知県都市・交通局交通対策課】

→ 全国的に運転手不足の問題を抱えており、運行路線の短縮や便数の減少、デマンド型交通への切り換えなど、地域により様々な対応を行っているが、一般的に公共交通は厳しい状況である。

【国土交通省中部運輸局愛知運輸支局】

- ・ 今回の時刻表は、通勤・通学にも利用できる時間帯で提案されているが、朝の時間の鉄道との連携はどうか。

【会長】

→ 国府宮駅、大里駅から名鉄名古屋駅に向けた通勤・通学で利用していただけるよう、名古屋鉄道の時刻表を確認した上で設定した。

【総務課】

以上で閉会した。